

課題探究の成果を地域へ発信

『鳥取市地域振興会議』(11月26日開催)で青高生が発表



青谷高(鳥取市青谷町)の3年生が、青谷地域に寄港していた北前船をテーマに調査研究している。地元の神社で見つけた人物の名前から、江戸時代の海上商

業に携わった人々の足跡や地域の歴史に迫っている。26日、同町総合支所で開かれた地元の地域振興会議で成果を発表した。(渡辺暁子)

石に残る名から史実発掘

北前船とホタテの青谷

3年生は地域に根差した5月、同市の賀露と兵庫県課題探究に取り組み、本年 新温泉町の諸寄港とともに度は10人で行く班が北前「北前船寄港地」として日船を研究。青谷地域は昨年 本遺産に追加認定された。

青谷高生が研究成果発表



26日、鳥取市青谷町青谷の町総合支所
文献内容を参考に調査研究の成果を発表する生徒ら

生徒たちは、廻船問屋が航海の安全を祈願したときとされる湊神社を訪れ、拜殿前のかまどの台座に彫られた「寛政十三年 願主 赤間 関(現在の山口県下関市) 升屋與右衛門」に着目。廻船に関わっていたとみられる與右衛門が、ホタテ貝を巡る取引で借金を返済してもらえず役人に訴えたことを、鳥取藩政資料「家老日記」や青谷町史などの文献から突き止めた。

同時に、当時の青谷で大漁だったホタテ貝が各地に送られていたことなど、活発な民間の廻船商業をたどった。発表では出田美紀さん(18)と竹本悠希さん(17)、藪木花奈さん(18)が登場した。3人は「下関に向いて與右衛門さんについて調べたい。北前船の歴史を掘り起こして地域盛り上げのきっかけになれば」といい、同会議の高橋克己会長は「高校生と連携して北前船をPRしたい」と話した。